

学園大学史料館 ミュージアムレター

Gakushuin University Museum of History Museum Letter No.26

発行日 ● 平成26年(2014)9月20日

もくじ

ごあいさつ.....	1
桜圃名宝展から.....	2・3
「菊花紋吉野山蒔絵料紙硯箱」	
「寺内正毅宛 乃木希典書簡 (大正元年9月12日付)」	
学園大学史料館からのお知らせ.....	4
◎「桜圃名宝」展	
◎第74回学園大学史料館講座	
◎ミニ図録「桜圃名宝展〔漆藝編〕」	
◎ミニ展示「伊藤清一確率解析の父」	



菊花紋散蒔絵文台硯箱

ごあいさつ

9月に入り、夏休みを楽しんでいた学生が大学に戻って授業の準備を始め出すと、キャンパスは秋の様相を呈します。

さて、今秋の展覧会は、寺内正毅・寿一関係資料の中から厳選した資料を展示します。当館は昨年度、寺内家より、今号でご紹介する大正天皇からの下賜品を含む品々や書簡を寄贈していただきました。そこで、寺内正毅の号が桜圃であったことにちなみ、「桜圃名宝」展と題して、この新収資料の一部を公開する展覧会を開催します。本ミュージアムレターでは、なかでも特に注目される資料2点を、分かりやすい解説と写真でご紹介します。展覧会や資料について、一層興味を深めていただければと思います。

展覧会の実施と本号の作成にご協力くださいました皆様に心から御礼申し上げます。

(館長 和光 純)

新収 寺内正毅・寿一関係資料と「桜圃名宝」展

寺内正毅(1852-1919)は、号を桜圃といい明治から大正にかけて、陸軍大臣や初代朝鮮総督を務め、大正5年(1916)に第18代内閣総理大臣となりました。また、国の役職を歴任するなかで伯爵の爵位を授けられ、陸軍の最高位として元帥府にも列せられています。後に、息子の寿一(1879-1946)も元帥となりましたが、明治から昭和前期にかけて、皇族以外で父子二代が元帥となったのはこの寺内正毅・寿一父子だけでした。

激動の時代に国の要職を務めた寺内父子に関する資料は、国立国会図書館の憲政資料室や、正毅の出身地である山口に多く残されています。なかでも、山口県立大学が所蔵する資料群は、正毅が生前に構想し、寿一が完成させた私設図書館「桜圃寺内文庫」の旧蔵品を核とするもので、近年関連資料が新たに加わり整理と公開の作業が進んでいます。

そして、当館が今回新たに収蔵した資料群は、正毅・寿一が遺した寺内家旧蔵の品350点余りからなります。役職歴任にともない皇室から下賜された工芸品や、吉田松陰・高杉晋作・木戸孝允など正毅が収集した山口(旧長州藩)の幕末維新の志士たちの書、同時代の人々からの書簡等々。「桜圃名宝」展では、そのなかから選りすぐりの漆藝や墨蹟、書簡など30点ほどをご紹介します。いずれもご子孫により大切に保管されてきた寺内家の名宝です。近代史・美術工芸史研究ともに注目の資料を、ぜひご覧ください。

(学芸員 吉廣さやか)

桜圃名宝展から

菊花紋吉野山蒔絵料紙硯箱 一具

木製漆塗

大正5年(1916)下賜

左/料紙箱 縦43.9×横35.7×高15.3cm

右/硯箱 縦26.3×横23.5×高5.7cm

金粉を密に蒔き付けて飾った、たいへんに豪華な料紙箱と硯箱のセットです。蓋表の中央には菊花紋を据え、その下になだらかな山の稜線と、そこに咲く満開の桜の花を描いています。また、蓋の裏面から身の見込にかけては濃密な梨子地に仕立て、水の流りに漂う楓の葉を表わしています。

文様は、金の高蒔絵に銀蒔を交えて表現されており、樹の幹などは、金の薄板を小さな方形に切った切金とよばれる技法で飾られています。

なお、硯箱には、銀製で桜の花枝を象った水滴と、縁を金地に仕立てた硯、さらに筆、錐、小刀、墨挿なども備わっていて、内容品が完存する作例として貴重なものといえます。

さて、この料紙硯箱の特色としては、まず、その精緻な蒔絵表現を上げることができでしょう。桜の花弁などにみられるように、高蒔絵で描かれた文様の輪郭線はきわめてシャープで、遠景にみえる桜樹の蒔暈し表現と好対照をなしています。また、蓋の裏にも、微細な金粉による霧がかかったような蒔暈し、付描による波の流麗な線、研出蒔絵による半ば水没した楓葉の表現など、きわめて高度な蒔絵技巧が凝らされていて、見事な仕上がりをみせています。

また、文様の面では、箱の表を山に桜樹を配した吉野山、内面を流水に楓を取り合わせた龍田川の意匠で飾った構成の妙に注目しなくてはなりません。

吉野山と龍田川は、いずれも現在の奈良県中央部に位置する景勝地で、平安時代以来、著名な歌枕(和歌



料紙箱蓋表部分

の名所)として、多くの歌人にその美しさを愛でられてきました。そして、ここで主要なモチーフとして描かれている桜と楓が、春秋の季節を象徴するものであることはいうまでもありません。このように、箱の表面と内面をまったく対照的なデザインで飾る手法は、すでに室町時代の硯箱などにその例をみることができます。この料紙硯箱は、天皇からの御下賜品として発注されたものであり、その制作にあたって、わが国の伝統的な蒔絵様式が強く意識されたことは、むしろ当然のことといえるでしょう。

(史料館客員研究員 小松 大秀)

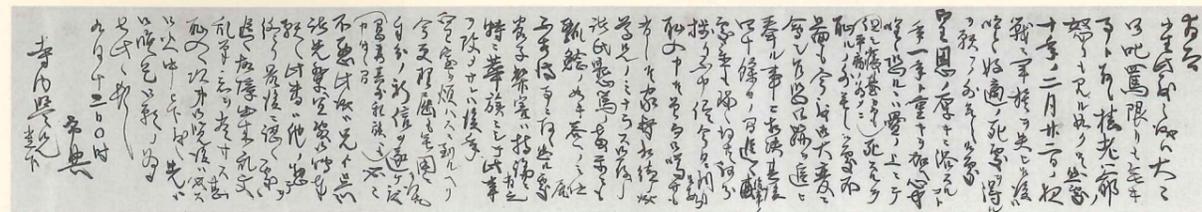


硯箱見込



料紙箱蓋裏部分

寺内正毅宛 乃木希典書簡(大正元年9月12日付)



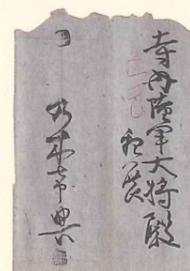
本書簡は、明治天皇の大喪の当日である大正元年(1912)9月13日に、同日殉死することになる乃木希典が陸軍大臣の寺内正毅に送った書簡です。

書簡の日付は「十二日〇時」となっていますが、12日から13日に変わる午前0時のことです。乃木は他の全ての後始末を終え、本書簡を最後にしたためていたところに「故障」が生じ、乱文乱筆となったことを恥じ入るといいます。このことから、本書簡が、乃木が自決する前の一番最後にしたためた書簡であることがわかります。

書簡の内容としては、乃木が明治10年(1877)2月22日、西南戦争の夜戦で敵軍に軍旗を奪われて以来「死処」を求め続け、特に軍人として暈の上で死ぬことを恥じていたこと、また死去した明治天皇の跡を追おうとしたが、後事の処理に大喪の当日までかかってしまったことなどが、あらためて確認されます。

また、乃木の長男・次男は日露戦争の際戦死したため、乃木伯爵家は断絶しかねない状態でしたが、養子を取ってまで華族の家督を嗣がせることは、後年皇室を煩わすとして反対の持論を乃木が有していたことがわかります。そして、このことを「愚妻其外親族」へ申付けたということからも、本書簡執筆時点では、乃木は自分ひとりが自決し、妻の静子を巻き込むつもりはなかったことが読み取れます。

このような「殉死」という行為が、「椿老翁」すなわち山県有朋や寺内など、残された他の陸軍関係者に迷惑をかけることは乃木も承知していました。しかし、寺内らへの暇乞いととも、上記の家督問題など後事を託すために、「遺言条々」(乃木夫妻自刃の際、白布



上/本紙 縦18.0×横109.4cm

下/封筒 縦21.4×横15.2cm

を覆った机の上の封書中にあったもの)とは別に、寺内宛ての本書簡をしたためたと推測されます。

書簡を受け取った寺内は、総理大臣の桂太郎とともに後始末に奔走します。その結果、大正天皇から3万円が下賜されることとなります。一方、乃木の意思に反して、大正3年(1914)、乃木の旧藩(長府藩)主たる子爵毛利元雄の実弟元智が聖旨で伯爵を授けられて、乃木家が再興します。それは、華族制度の原理を貫くという国家意思が、乃木個人の意思よりも優先されたことを意味しています。

(史料館研究員 千葉 功)



馬に乗った乃木希典(左)と寺内正毅(右)

平成 26 年度学習院大学史料館常設展

「桜圃名宝」展

会 期 平成 26 年 9 月 27 日(土) ~ 12 月 6 日(土)
* 閉室日 日曜・祝日、10 月 17 日(金) (開院記念日)、
10 月 31 日(金) ~ 11 月 4 日(火) (大学祭期間)

時 間 10:00 ~ 17:00
* 10 月 3 日(金) は 18:00 まで開館

会 場 学習院大学 北 2 号館 1 階 学習院大学史料館展示室

出品資料 「菊花紋吉野山蒔絵料紙硯箱」「菊花紋散蒔絵文台硯箱」
「草花蒔絵箱」「吉田松陰・高杉晋作書簡」
「寺内正毅宛 乃木希典書簡 (大正元年 9 月 12 日付)」 など

* 入場無料

* ギャラリートーク 10 月 25 日(土)、11 月 22 日(土) 各日 12:00 ~ (30 分程度)



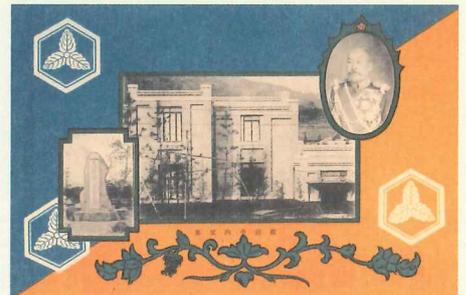
第 74 回学習院大学史料館講座

「桜圃寺内文庫の誕生とその後」

「桜圃名宝」展の関連講座です。寺内正毅が生前に構想し、息子の寿一が完成させた桜圃寺内文庫。正毅の郷里・山口の宮野に建てられたこの寺内家私設図書館の蔵書の多くは現在、山口県立大学附属図書館に引き継がれています。今回の「桜圃名宝」展の展示資料とも関連の深い、「桜圃寺内文庫」の資料整理を行った伊藤幸司氏を講師としてお招きし、桜圃寺内文庫の成立と変遷、その史料内容などをお話ししていただきます。

日 時 10 月 3 日(金) 18:00 ~ 19:30
会 場 学習院大学 中央教育研究棟 302 教室
講 師 伊藤幸司氏 (九州大学大学院比較社会文化研究院 准教授)

* 参加無料、事前申込不要 (先着 220 名)



ミニ展示

「伊藤清一確率解析の父」

確率論研究の先駆者であり、世界的に有名な数学者である伊藤清先生 (1915-2008) の研究の軌跡を、ガウス賞、京都賞、ウルフ賞、文化勲章など、生涯に受賞した数々の輝かしい賞と共にご紹介いたします。伊藤先生は、京都大学教授ののち、学習院大学理学部数学科教授として教鞭を執るなど、学習院大学ともゆかりが深い先生です。

会期: 10月14日(火)~25日(土)
* 日曜・祝日、10月17日(金)、18日(土)は休館

会場: 学習院大学史料館
(北別館) 内
※ 見学無料

時間: 9:30 ~ 17:30
(土曜日は 12:30 まで)



ミニ図録「桜圃名宝展(漆藝編)」

桜圃名宝展では、展覧会の開催を記念し、展示中の漆藝品全点を掲載したミニ図録を作成いたしました。開催期間中、ご希望の方に展示室受付にて無料(お一人様一冊)で差し上げます。部数に限りがございますので、予め御了承ください。

ミュージアム・レター第26号

2014年9月20日発行
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
電話 03(3986)0221
内線 6569
FAX 03(5992)9219

Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館

● ホームページもご覧ください
<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>

